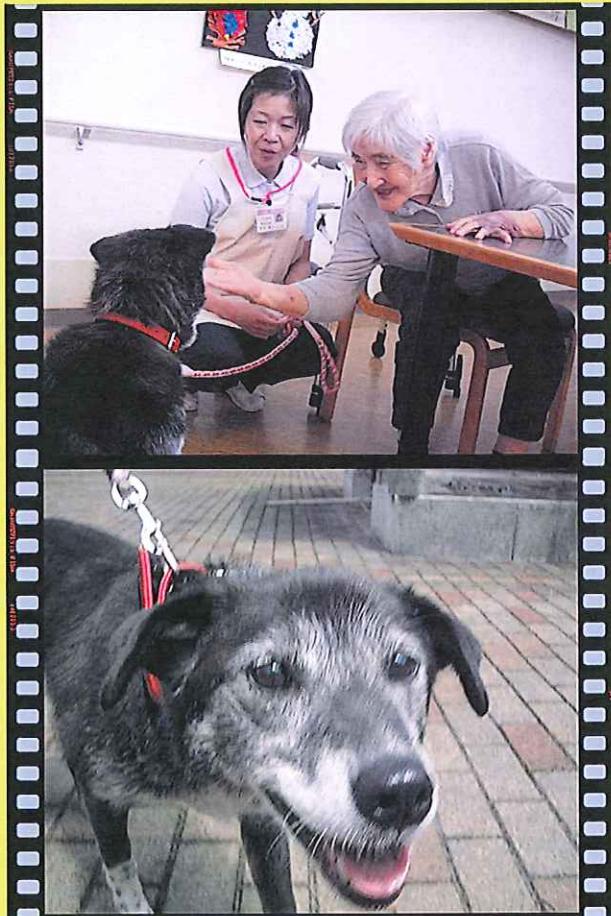


老健にいがた

第34号

2013. 8 Vol. 34



目次

巻頭言	1	研修会報告	10
特別寄稿	2	協会だより	11~16
特集：アニマルセラピー	3~7	老健とわたし	17~18
平成24年度県老健大会学術奨励賞報告	8~9	みんなの広場	19

卷頭言

時代の変化に対応する介護老人保健施設

新潟県介護老人保健施設協会
副会長・学術担当理事

松田由紀夫



世界は9・11テロによって変わり、日本は東日本大震災に変わったといわれている。では介護老人保健施設（老健）はどうか。老健を取り巻く環境はこれまで3回大きく変わった。まず、寝たきり高齢者による病院のベッド利用と医療費の増大を解決する方法のひとつとして老健への患者移動と寝たきりゼロが謳われた制度開設時期。この時期の老健は診療報酬的にかなり保護されており、運営上の心配はほとんどなかった。最大の問題は老健の開設許可を得ることであった。

次は介護保険制度始まりの時期。社会で支える介護、女性の介護からの解放を謳った介護保険制度の中にケアプランやケアマネジャーが導入された。ケアの内容の標準化や公開化が進んだが、一方で実際の介護よりも書類作成のために費やす時間が大幅に増加した。この時期はまだ経営的には余裕があった。

そして現在。更に少子高齢化は進み、特に都市部での高齢者人口の増加が著しい。介護や医療などの福祉関係費用は増え、国家予算の半分近くを占めるようになった。しかし、労働人口の減少と経済の低迷で税収は増えない。厚生省は地域包括ケア体制で再び在宅における介護を志向し、高齢者賃貸住宅をはじめとする多くの類型施設を認めた。自己負担による住み替えと要介護度判定をより厳しくして、サービス利用を制限することで介護保険費用の減少を図ろうとしている。これによって都市部では一般企業による類型施設が雨後の筈の如く建ち、要介護高齢者の取り合い・囲い込みが激しくなってきた。介護老人福祉施設（特養）はこれまでの見守り介護から「科学的介護」をスローガンに掲げて、老健に近い介護やりハビリを行おうとしている。一方、利用者における変化では経済的にも文化的にも多様な高齢者が出現し、本人や家族の要望も様々となってきた。これは地域により、首都圏と地方都市、山間地では質も量も異なる。介護業界はこれまでの保護された時代から競争の時代に突入したと言える。老健はこの変化に耐えうる体力ある組織にならなければいけない。多様な要望（ニーズ）に応える力を持たなければならない。その為にはただ単に良い介護を提供するだけではなく、経営の安定も必要である。老人保健施設協会をはじめとした組織が介護保険制度の内容や報酬の改定を求めて努力をするのはもちろんあるが、介護の現場においては、職員の経験や研修によって資質の向上を図り、コスト感覚を持って、ニーズに応じた、より良い介護をすることが求められる。

特別寄稿

新潟県福祉保健部長

本間俊一



新潟県介護老人保健施設協会会員の皆様におかれましては、日ごろから、高齢者保健福祉の向上に御尽力いただいておりますことに、厚く御礼申し上げます。

さて、昨年度の介護保険制度の改正により、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるよう、医療、介護、予防、住まい、生活支援サービスを一体的に提供する「地域包括ケアシステム」の構築に向けた取組みが進められているところです。

介護老人保健施設の強みは、医師や看護、リハビリテーション等の医療職をはじめ、福祉関連職を含めた多様な専門職種が一体的にケアマネジメントに携わる施設であること、そして、入所サービスだけでなく、通所リハビリテーションや訪問系サービス等、様々なサービスを提供することができる施設であることが挙げられ、これらの強みは、まさに地域包括ケアシステムの中で発揮されることが期待されているものです。医療と介護の機能を併せ持ち、施設と在宅を繋ぐ施設として、介護老人保健施設には、これまで以上に地域や家庭との関わりを深め、これから地域包括ケアの中心的役割を担っていただきたいと考えております。

県では、「新潟県『夢おこし』政策プラン」に基づき、高齢者一人ひとりが大切にされ、自分らしく健康で安心して暮らせる新潟県づくりを基本方針として、「新潟県高齢者地域ケア推進プラン」を策定しました。この基本方針を達成するため、高齢者の安心を確保する「支え合いの地域づくり」、地域で支える「介護基盤の整備」、健康長寿を目指す「介護予防と健康づくり」、高齢者が支え手として活躍する「社会参加の促進」を目標として施策を展開し、地域包括ケアシステムの構築を図ってまいりたいと考えておりますので、皆様の御理解と御協力をお願い申し上げます。

また、地域主権一括法の施行に伴い、介護老人保健施設の人員、設備や運営に関する基準を定めた県条例等を今年度から施行しました。本県独自の基準として、災害事象ごとの災害対応マニュアルの策定や、効果的な機能訓練や職員の負担軽減に寄与する技術進歩に配慮した設備の導入等について定めたところであり、条例等を遵守し、適切な施設の運営に努めていただきたいと思います。

皆様におかれましては、今後とも利用者や職員の皆様の健康管理や施設の衛生管理の徹底に御尽力いただき、感染症の対応等に万全を期していただくようお願い申し上げます。

終わりに、新潟県介護老人保健施設協会のますますの御発展と会員の皆様の御健勝を祈念いたしまして、挨拶いたします。

リバとレオの笑顔クラブ日記

～三川しんあい園の アニマルセラピー～



介護老人保健施設
三川しんあい園

三川しんあい園では、平成21年7月より犬を主としたアニマルセラピーを始めた。

まず、当園の紹介をさせて頂き、アニマルセラピーの取り組みの経緯や現状についてお伝えしようと思う。

三川しんあい園の紹介



三川しんあい園は、新潟県と福島県の県境を結ぶ、東蒲原郡阿賀町にある。阿賀町の人口は約13,000人、高齢者数は約5,700人、高齢化率約40%超、県内第2位の超高齢化の町である。（新潟県と福島県を結ぶ磐越西線SLばんえつ物語号が走り、毎年5月には「狐の嫁入り」と呼ばれる伝統行事が開催される地としても有名である。）

介護老人保健施設は町内では当園のみである。三川しんあい園は、入所定員150床、通所40名の介護老人保健施設として平成9年4月に開設して現在に至っている。

アニマルセラピー開始

まずセラピーを始めた理由としては、高齢者の方々は加齢と共に身体、精神機能の低下により意欲低下、不安、失認等が現れて来るが動物との触れ合いにより人間が本来持っている、心の優しさや活力がよみがえって来て笑顔や笑い声が出て来る事を信じて開始した。

始めるに当たりまず利用者の方々の意向をうかがう事から始めた。又、我々が出来る範囲はどうかを検討した。

i) どんな動物がお好きですか？

(アンケート方式による意向調査：例えば馬、山羊、犬、猫、兎、モルモット、金魚等)

ii) 実際に当園で出来る動物は何か？

iii) 医学的、獣医学的に疾病に対する予防処置出来るか？

iv) 実動の費用は可能な範囲で出来るか？

v) しつけー訓練がしっかり出来た動物が調達出来るか？

vi) セラピーに携わる職員はどうしたらよいか？

以上の様な項目を主体に考え実行に移した。

その結果、動物としては犬が一番適当と思われその調達に一歩を踏み出した。

まずは、犬はセラピー犬として調達出来るのか！セラピー犬として資格を持った犬が何処にいるか!!との疑問があり、

i) 国際ペットワールド専門学校

ii) 坂田動物病院(三条市)

iii) 下越動物愛護協会

iv) 新潟市保健所

以上の各所に問い合わせたが要約すると、資格を持った犬はごく少数でそれを取り扱うスタッフも県内では少ない、又距離的に当園迄訪問する余裕もない事が解った。



犬の実動

前述の様な結果を踏まえて当園職員の中で自宅で犬を飼っている方でセラピー犬として適当な犬はいないか、そしているとすればどのような訓練をしたら良いかを検討した。

その結果、1匹の犬の持ち主と担当職員が上記のペット専門学校、坂田動物病院へ実習に行き、セラピー犬としてのあり方を修得し発足の運びとなった。

第1号のワンちゃんは、リバ、牝、10歳、雑種の中型犬、性格温和、余り吠えない、人には絶対噛み付かない、飼い主の命令に良く従う等、セラピー犬としての及第点をもらった。

また、セラピー実施中も講師として獣医師 坂田光子先生にも御来園頂き色々と御指導を受けた。

なお活動の名称は、セラピー犬によって利用者の方々の笑顔が引き出せる様「笑顔クラブ」とし、月2回（隔週水曜日）1回20分程度、両館ホールにて参加人数は15～20名、犬が好きな利用者様を対象として触れ合う機会を作った。

当園は、月美館（主に認知症の利用者様）、雪美館（お年寄りで一般の疾病のある利用者様）の2つの館に分かれており両館共にセラピーの時は職員が3名ずつで担当した。又、反省会を隔月に行うようにした。



実施状況

- 最初は獣医師による健康診断書提出
(年1回)

- セラピー開始前に健康状態チェック
- しつけの確認（大小便）
- お年寄りと犬との疲労度の確認
- 不測事態への対応
- 獣医師資格を持った職員駐在

両館共に実施前に利用者様はホールで円型の輪になって頂き、犬リバは輪の中に入り各々の方を訪問する型をとり、参加者ひとりひとりの個々の希望に合せ自由に触れ合ってもらつた。

利用者様は笑顔で声を掛けたり、犬の頭を撫でたり、「お座り」、「お手」を命ずる人等々で和気あいあいの雰囲気が流れた。

セラピーを始めて4～5回位はリバもやや興奮気味だったが次第に馴れて回を重ねるごとに自分からよろこんでホールに向って行く様になった。



NHKテレビの取材

平成23年3月にNHK新潟からテレビ番組の「お昼はじょんのび」と言う番組に笑顔クラブのセラピー犬の取り組みについて取材申し込みがあり、放送は4月8日に特集として放映して頂いた。

この反響は一般の方々からも、お年寄りが笑顔で犬と接している姿を見て感動したとの言葉をもらった。そして何よりも放映がはずみになり、皆さんの笑顔と活力が湧いて来るのが実感できた。



2匹目の犬レオの参加 ～平成23年6月～

リバも順調に馴れてお年寄りとの疎通も充分取れる様になったが、リバの負担も考えていたところ、幸い職員の方からさらに犬の提供をして下さる方があらわれた。

レオ、雄、6歳、犬種マルチーズでリバと全く同じ様な条件をすべてクリアーしていたので、参加してもらう事になった。

レオは小柄なのでお年寄りの方に抱っこされたり、手をペロペロなめたり、大人気でさらに効果が現われた。今では多くの利用者様が月2回の、これらの犬との交流の日をとても楽しみにしておられ、アニマルセラピーで園にうるおいが生まれるのが実感される。



最後に

以上、当園でのお年寄りとの交流状況を紹介したが冒頭にも記しましたが何よりも人と動物の相互関係により精神的効果と愛情、そして写真でご覧になれるような「笑顔」が生じる事に尽きます。今後も色々な難問が出て来ると思いますが、その都度職員一丸となって前向きに考えて行くつもりです。皆様の御指導をよろしくお願いします。

アニマルセラピーを見学されたい方は当園までご連絡下さい。また、当園が紹介されたNHKの番組をDVDにしてありますので、ご希望の方にはお貸しいたします。

最後にリバ、レオ、提供者のSSさん、YSさん、次長YHさん、関係職員に深く感謝します。

(文責)TD (編集)TY、MH

平成24年度県老健大会学術奨励賞報告

平成24年度の老健大会にて学術奨励賞に選ばれた米山爽風苑の事例をご紹介させて頂きたいと思います。他の施設にも参考にして頂けたらと思います。

認知症女性入所者を対象とした 家事動作グループ活動

介護老人保健施設 米山爽風苑
 作業療法士 早川さやか
 共同研究者 中村 香織 大井めぐみ
 一ノ本直美 鈴木 康一



<はじめに>

今回、認知症の女性入所者を対象に自発的に取り組める活動は無いかと考え、皆が共通して昔から行つてきしたことであり馴染みがあるだろうということから、家事動作グループ活動である「かっぽう着の会」を立ち上げるに至った。その活動内容と経過、考察を以下に報告する。

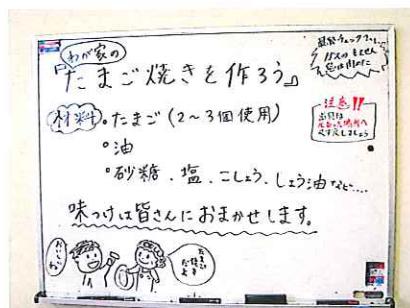
<メンバー>

固定の女性入所者 6名 HDS-R : 11点±2点 平均年齢 : 86.4歳 選定基準 : ①活動場所の関係上短い距離の歩行能力が保たれている方。②普段受動的な生活を送っている方。③働きかけや環境設定で他者交流を持てる可能性があると評価した方。

<活動期間及び内容>

H22.11.8 ~ H24.1.30 全 50回 頻度 : 1回/週 午後 OT2名で実施。

内容 : 調理実習とそれに伴う片付け、掃除、裁縫、園芸、染色、茶話会等を週替わりで行う。今回は、その中でもより変化がわかりやすかった調理に焦点を当てていく。



調理の流れ : ①メンバーに昔よく作ったものをいくつか挙げてもらい、その中から作りたいものを決める。②調理方法や手順についてはメンバーに教えてもらい、役割分担して調理を行う。③出来上がった料理はその場でメンバー及びOTで試食する。

今まで作ったもの : 始めは認知症の方に対してどの程度まで提供して良いか、メンバーにどの程度調理能力が残っているのかが分からなかったため、おにぎり、味噌汁、ゴマ和え、きんぴら等、調理

工程の簡単なものを作った。徐々に天ぷら、いなり寿し、ちまき、山菜料理等、難易度の高いものを作るようにになった。また、調理で使用する材料は職員が畑や山で採れた野菜や山菜を持ってきてもらった。



【卵焼き作り】

<経過・結果>

開始当初はOTが一つずつ指示を出し、役割を振りながら行わなければいけない状態だった。15回目頃から、「次はこれをやらないと」「これは私がやろうか」等メンバーの中で自ら仕事を選択・立候補する方が出てきた。この頃から活動中に様々な昔の経験を談笑したり、共感し合ったりする様子が見られるようになった。

また、それまで分からぬる点があるとOTに確認していたが、徐々にメンバー同士相談し合う様子も見られるようになった。更に25回目頃からはリーダー的存在になるメンバーが現れ「Aさんは味付け上手いから頼んだ」と声をかけたり、手が空けば自ら洗い物を行ったりと自分たちで役割を見つけ分担を行いながら会を進めることができるようにになってきた。その際OTは自発的な行動を尊重するため、なるべく口を挟まず、メンバーに任せるようにしていた。また、「みんなでやるからいいの。失敗も笑い飛ばせるね」と声を掛け合う様子が見られるようになった。

<日常生活での変化>

グループ発足前はお互いの存在を知らなかつたり、顔は知っていても声を掛け合うという様子はなかった。しかしグループ発足後はメンバーをお互いが認識できるようになり、グループ活動時だけでなく普段の生活の中でも名前で呼び合ったり一緒に談笑したりするなど、行動を共にする時間が増えていった。「Bさんは足が悪いから歩くのがゆっくりなんだよ」「Cさんはトイレが近いんだよね」「Dさんは歌が上手いんだわ」とそれぞれの特徴を話す様子も聞かれるようになった。また、日中のほとんどを自室で過ごしていたのが、ホールに出て一緒に過ごす時間ができたり、活動前には声を掛け、誘い合う様子も見られるようになった。



【天ぷら作りの様子】

<考察>

家事動作は主婦経験のあるメンバーにとって毎日当たり前に行っていた、慣れ親しんでいた活動であり、長い間主体的に行っていたものであると言える。最初こそは指示を待っている状態ではあったが、包丁さばきや料理の味付けは完璧で、そこには長い間主婦として積み重ねられてきた経験を感じた。また、似た経験を持った女性が集まり、昔を回想しながら行うことで失敗しても笑いあえる関係が築かれたと考える。活動中は笑顔が絶えず過去の経験と「今までやっていた」という自信から、安心感を持ちやすく、自発的に行いやすい活動であったと考えられる。

グループ内において自発的行動の出現に伴い、OTは指示の量やお手伝いの量を少しづつ減らし、メンバーの行動を尊重することにした。普段の生活の中では業務時間の都合もあり、日常生活を職員の声かけや介助で送ることが多く、入所者が自分で何かを考え、選択し、行動する機会が少ないと言える。しかし、今回活動内で自発的行動を尊重したことが、メンバー自身で考え、判断しながら活動を進めていくことに繋がったものと思われる。そうした時間の積み重ねでお互いの役割や特徴を知り、認識し合うまでに至ったのではないか。

自発的に行動するということはその人らしい活動が出来るという事であり、結果、この会がメンバーにとって楽しめる時間となったのではないか。楽しいと思える時間を共有できたことが更にお互いを印象付け、普段の生活にも反映したと考える。

<まとめ>

今回の活動を通して、自発的に何かを行うことはその人らしい生活を送る上で重要なものであり、必要な能力のひとつであることを学んだ。また、認知症だからできないではなく、認知症だからこそ馴染みのある活動を提供し記憶の想起を行うことが、普段埋もれてしまい失われかけている能力を引き出したり、維持することに繋がるのではないかと考える。

「かっぽう着の会」は入所者の変化もしかりだが、OT自身も認知症の方への対応や提供方法、考え方等、新たに多くの経験や知識を学び成長する活動となつた。



【入所者が調理した天ぷら】

高齢者のリハビリテーション研修会

平成25年2月21日に高齢者リハビリテーション研修会として、木之瀬隆先生より講義をしていただきました。

車椅子は座位を保持する機能は弱く、長く座ることで痛みや腰部の変形、褥瘡の原因になることなど、基本的なことから解説をされ、そのため使い回しではなく、個人に合わせた車椅子を使用することが重要とご指摘されていました。

午後より吉井真理先生に加わっていただき、モジュラー型車椅子の取り扱いやリフトの操作の実習が行われ、参加者からは、調整した車椅子の座り心地の変化やリフト操作のしやすさに驚いた、との感想が上がりました。

日 時：平成25年2月21日(木)
会 場：新潟ユニゾンプラザ
参加施設：53施設
参加人数：91名



木之瀬 隆 先生 プロフィール

東京理科大学工学部電子工学科卒、日本大学大学院理工学研究科修了 工学修士、日本医療科学大学 健康医療学部 リハビリテーション学科 作業療法学科専攻 専攻長教授、株式会社シーティング研究所 代表取締役。
研究テーマ：高齢者のシーティングと褥瘡予防、義肢装具等のリハビリテーション機器に関する研究 など多数。



吉井 真理 先生 プロフィール

作業療法士、シーティングコンサルタント。
脳外科・整形外科のある都内病院に勤務後、結婚を機に新潟へ帰郷。
現在は特別養護老人ホームに勤務。
シーティングシステム研究会所属、シーティングコンサルタント協会所属。

研修会日程

講義Ⅰ 「車椅子シーティングの基本と座位能力分類の対応」

実 習 「モジュラー車椅子の取り扱い」「ティルト・リクライニング車椅子とリフトの実習」

講義Ⅱ 「車椅子生活と褥瘡予防」



～参加者の声～

- ・自ら痛いと言えない利用者様に対し、私たちはもっと気配りをしてあげなくてはいけない。
- ・認知症の利用者様の不適理由のひとつに車椅子の不適応があげられ、なるほどと思った。
- ・車椅子を体型に合わせて調節することで、大幅な除圧につながることが、しっかりと目に見える形で体験することができた。



平成24年度 事務長会議報告

平成25年2月1日、ホテルイタリア軒にて80施設89名が参加し開催されました。最初に馬場会長より挨拶があり、新潟県福祉保健部高齢福祉保健課碓井施設福祉係長より介護老人保健施設等の設備及び運営に関する基準の条例化等について説明があり、条例等を遵守し、適切な施設の運営に努めるよう指導がありました。

- 1 地方分権・地域主権改革の経緯
- 2 条例化に向けた県の取組
- 3 県における基準条例等の制定方針

県では国の省令基準を「従うべき基準型」、「標準型」、「参酌すべき基準型」の3パターンに分類し、「参酌すべき基準型」について、下記により定める。



独自基準	独自基準の効果
○災害ごとの避難マニュアルの策定	入所者の支援体制の強化
○施設運営からの暴力団の排除	施設の適正な運営の確保
○技術の進歩に配慮した設備整備	入所者のサービスの向上 従業者の業務負担軽減
○入所者のサービス等に係る記録の保存期間 2年→5年	入所者のサービス提供内容等の適切な管理

また、福祉保健部健康対策課感染症対策係佐藤主査より、「HIV・エイズ患者の療養支援について」の説明があり、今後HIV・エイズ患者の高齢化により老健施設に入所されることが予想されるので、療養支援の対応に配慮を頂きたい旨のお話がありました。

全老健の高椋副会長を講師として「これから的老健の姿について」～老健施設2025ビジョンワークショップ～について、ご講演を頂きました。

平成24年度 臨時総会開催

平成24年度臨時総会が平成25年3月19日ホテルイタリア軒にて開催されました。

第1号議案 役員の任期満了に伴う役員改選について

執行部より原案を提案し議決され、下記のとおり全役員留任により執行部が決定しました。

〔執行部〕		
会長	馬場 肝作	やまばうし
副会長	松田 ひろし	米山爽風苑
副会長	松田 由紀夫	ケアポートすなやま
監事	野村 穂一	くびきの
監事	石田 央	越南苑
理事	鈴木 雄二	アビラ大形
理事	長谷川 まこと	しんあい園
理事	戸澤 和夫	三面の里
理事	樋熊 紀雄	女池南風苑
理事	土田 獻	陽光園
顧問	田中 政春	楽山苑

〔全国老人保健施設協会新潟県支部〕	
支部長	馬場 肝作
代議員	馬場 肝作
代議員	松田 ひろし
代議員	石田 央
予備代議員	野村 穂一
予備代議員	松田 由紀夫
予備代議員	土田 獻



第2号議案 平成25年度事業計画案及び平成25年度収支予算案について
原案通り議決されました。

平成25年度 通常総会開催

平成25年度通常総会が平成25年5月2日、ホテルイタリア軒にて開催されました。冒頭、馬場肝作会長が挨拶されました。その後、事務局より総会時会員数97名のうち25名が出席（他に代理出席6名）、委任状提出会員65名で計90名となり、定足数を満たし本総会成立の報告の後、議長に清流苑の大森先生を選任し進められました。また、議事録署名委員にてらどまりの岡田先生・なでしこの樋口先生が選任されました。議題に入る前に、議長より挨拶があり、その後議事に入りました。

第1号議案：平成24年度事業報告・収支決算に関する件

第2号議案：その他

活発な審議がなされ、全議案が原案通り議決されました。

総会終了後に、平成24年度新潟県介護老人保健施設大会の学術奨励賞（7題）の表彰式と介護米百俵賞の授与が行われました。
[事務局]



介護米百俵賞表彰

平成24年度は学術奨励賞を受賞した7施設の中から、介護米百俵賞として晴和会上所園の「当施設における褥瘡対策の経緯と現状」を発表した川口英弘様（写真下）が受賞しました。授与式では賞状及び副賞（30万円）が授与されました。

皆様も「介護米百俵賞」を目指して日々がんばっていきましょう！

☆介護米百俵賞とは☆

新潟県介護老人保健施設の介護技術等の向上を目指す目的で平成22年4月1日に創設された新潟県介護老人保健施設協会規約です。

表彰の対象は新潟県介護老人保健施設協会会員施設の職員であり、新潟県介護老人保健施設大会並びに全国介護老人保健施設大会等で発表したものとなります。本賞は原則として毎年1演題、又は1団体に授与されます。

選考方法は、理事会が推薦する選考委員会が行い、副賞は対象発表の内容により理事会で決定されます。



平成25年度 事業計画

会議

- (1) 通常総会 会則第11条の規定に基づき年1回開催する。
- (2) 臨時総会 会則第11条の規定に基づき必要に応じて開催する。
- (3) 役員会 必要に応じて開催する。

委員会

- 【学術研修委員会】 年6回程度必要に応じ開催し、研修会等の実施について具体的な事項を検討する。
- 【広報委員会】 年6回程度必要に応じ開催し、機関誌の編集・立案、及び協会ホームページの管理・運営について検討する。
- 【トラブル防止検討委員会】 事故・トラブルの未然防止を主目的とした研究をする。
- 【事務長会】 実務的な問題事項を検討し、必要に応じ事務長会議を開催する。

新潟県介護老人保健施設大会

開催日および会場：平成25年12月13日（金）新潟ユニゾンプラザ

発表演題は各施設1題以上とし、参加者数は制限せず多数の参加者を募る。

研修事業

1 「高齢者のリハビリテーション研修会」

期日：平成25年8月2日（金）午前10時～
場所：新潟ユニゾンプラザ 4F 大会議室
講師：介護老人保健施設ひもろぎの園 作業療法士 石井 利幸 先生
目的：認知症への理解を深め、残存能力を引き出すための関わりについて学ぶ

2 「介護記録の書き方講座」

期日：平成25年9月5日（木）午前10時～
場所：アトリウム長岡 白鳳・天平
講師：株式会社ねこの手 代表取締役 伊藤 亜記 氏
目的：『介護現場のモチベーションを上げる！介護記録の書き方』を学ぶ

3 「ひやり・はっと事故防止対応研修会」

期日：平成25年10月2日（水）午前10時～
場所：アトリウム長岡 白鳳・天平
講師：全老健に依頼中
目的：会員職員のひやり・はつの防止及び事故防止研修

4 「現場すぐできる実践講座」

期日：平成25年11月7日（木）午前10時～
場所：新潟ユニゾンプラザ 4F 大会議室
講師：明倫短期大学 歯科衛生士学科 准教授 江川 広子 先生
目的：摂食・嚥下障害に対するアプローチと口腔ケアを学ぶ

5 「褥瘡・拘縮対策研修会」

期 日：平成 25 年 11 月 25 日（月）午前 10 時～
場 所：アトリウム長岡 白鳳・天平
講 師：生き活きサポートセンターうえるぱ高知 下元 佳子 氏
目 的：褥瘡・拘縮予防のための動作介助とポジショニングを学ぶ

6 公開セミナー（県大会と同時開催）

期 日：平成 25 年 12 月 13 日（金）
場 所：新潟ユニゾンプラザ
講 師：未定

7 事務長会議

期 日：平成 26 年 2 月 21 日（金）
場 所：ホテルイタリア軒
講 師：全老健の講師を予定
目 的：県の指導助言と施設運営について研修

施設運営アンケート調査の実施

必要に応じて実施する。

機関誌の発行

機関誌「老健にいがた」第 34 号・第 35 号の発行

関東甲信越ブロック支部長会議

平成 25 年 6 月 4 日（火）神奈川県横浜市ホテルニューグランで開催され、下記の議案について審議・決定した。

第 1 号議案 平成 27 年度 全国老人保健施設大会開催について

平成 27 年度第 26 回全国介護老人保健施設大会は神奈川県を推薦する事に最終決定した。

平成 25 年度「新潟県介護老人保健施設大会」開催のお知らせ

開催日・会場 平成 25 年 12 月 13 日（金）午前 10 時より 新潟ユニゾンプラザ
参 加 受 付 平成 25 年 10 月初旬頃より参加受付開始予定

公開セミナー

同 時 開 催

委員会紹介

—各委員長に抱負を伺いました—

【事務長委員会】

委員長 斎藤 周司

事務長会は平成12年の介護保険制度施行の年に介護保険制度下における円滑な施設運営に資することを目的として設置されました。この事務長会を有効に機能させるために事務長委員会が設置されています。従ってこの委員会はいかに会員施設共通の課題を広い視点で取り上げることが出来るかが重要となってきます。これまでの活動としては、事務長会議（全体会議）の企画・立案と運営、会員施設の利用料や各種加算の算定状況等のアンケートとそのフィードバック等が行なわれてきました。

去る7月4日、今年度の第1回委員会が新潟市で行なわれました。来年2月末頃に事務長会議を開催することになりました。内容については今後更に詰めて円滑な施設運営に役立つ有意義なものにしたいと思っています。

老健を取り巻く環境は少子高齢化社会の進行に伴ってますます変化していくことでしょう。これからも馬場会長はじめ執行部のご指導の下、この変化に負けないように、関係各位のご意見・要望を反映した有意義な活動をしていきたいと考えていますので、ご支援ご協力の程どうぞよろしくお願ひいたします。

	施設名	氏名		施設名	氏名
担当理事	やまぼうし	馬場肝作	委員	グリーンヒル与板	遠藤真一
委員長	楽山苑	斎藤周司	委員	米山爽風苑	藍澤豊子
委員	アビラ大形	中村久美子	委員	いわむろの里	阿部恵子

【学術研修委員会】

委員長 佐藤主一

前期に引き続き、本期も研修委員長を承りました佐藤と申します。前期を振り返ると、委員の皆様が主体的に活動してくださいり、私はそれについて行くという2年間だったように思います。この場を借りて、担当理事の先生方をはじめ委員の皆様にお礼申し上げます。また本期もよろしくお願ひいたします。

介護保険制度をはじめ、高齢期のご利用者を取り巻く環境が大きく変動している中で、老健という施設の役割をどのように担っていかなければ良いか考えさせられます。また、改めてご利用者の自立を支援していくという事はどういうことか、そのためには何を行なうべきか等も問われているように感じます。地域に存在する施設として、またそこで働く一職員として、新たな知見・技術を学ぶ事や、改めて原点に戻って考えること等はとても重要だと考えます。この2年間も周囲の状況を踏まえつつ、楽しく役に立つ研修の機会を皆さんと一緒に設けていかなければと思います。多くの方が研修にご参加いただくことを期待しています。よろしくお願ひいたします。

	施設名	氏名		施設名	氏名
担当理事	ケアポートすなやま	松田由紀夫	委員	春風堂	岩渕貴志
担当理事	女池南風苑	樋熊紀雄	委員	白根ヴィラガーデン	石田隆人
担当理事	陽光園	土田勲	委員	千歳園	入倉奈央子
委員長	グリーンヒル与板	佐藤主一	委員	桃李園	坂牧由香
副委員長	女池南風苑	佐藤千賀子	委員	やまぼうし	伊藤香織
副委員長	てらどまり	渡部綾子	委員	陽光園	相馬芳江
委員	アビラ大形	眞柄彰人	委員	米山爽風苑	小栗俊史
委員	くびきの	品田由香理	委員	楽山苑	笹川幸絵
委員	ケアポートすなやま	高野恭彦			

【トラブル防止検討委員会】

委員長 堀 一二美

前年度に引き続きトラブル防止委員長を承ります三川しんあい園の堀と申します。毎年、各施設の事故防止の担当の方々にはアンケートにご協力頂きありがとうございます。この委員会は皆様方のアンケートの基で成り立っております。集計作業、事例提出等でお手数をお掛け頂いていますことを委員一同感謝しております。今後も引き続きご協力のほどよろしくお願ひ致します。また、今年10月にはトラブル防止に関する研修会を学術研修委員会と共同で開催する予定であります。追ってご案内の送付を致しますが大勢の方に参加頂きますよう重ねてお願ひ致します。ご協力のお願いばかりではなく、トラブル防止委員会が少しでも各施設の皆様方のお役に立つよう松田理事、戸澤理事の先生方のお力を借りしながら委員一同知恵を出し合い努めていく所存です。

	施設名	氏名		施設名	氏名
担当理事	米山爽風苑	松田ひろし	委員	はねうまの里	長谷川 学
担当理事	三面の里	戸澤和夫	委員	みずき苑	杉田浩子
委員長	三川しんあい園	堀 一二美	委員	やまぼうし	相澤陽介
委員	越南苑	亀倉よし子	委員	楽山苑	斎藤周司
委員	ケアプラザ見附	樋口智			

【広報委員会】

委員長 小黒由実

このたび広報委員長を仰せつかりました、長岡三古老人福祉会 介護老人保健施設てらどまりの小黒と申します。広報委員としては、まだまだ経験も浅く不安も多いですが、会長及び理事の先生方をはじめ、委員の皆さんよりご協力いただき、精一杯努めたいと思います。

老健が直面する様々な課題、多様化するニーズ等々、皆さんのが心を持っているテーマをタイムリーに紹介したいと思います。あまり難しいことはできませんが、地元に根付いた身近な話題を取り上げ、皆さんの役に立ててもらえればと思っています。

至らぬ委員長で、皆さんにご迷惑をおかけすると思いますが、今後ともよろしくお願ひ致します。

	施設名	氏名		施設名	氏名
担当理事	しんあい園	長谷川まこと	委員	越南苑	高橋公男
担当理事	アビラ大形	鈴木雄二	委員	さつき荘	伊藤竹弥
委員長	てらどまり	小黒由実	委員	しんあい園	伊藤和代
副委員長	ケアポートすなやま	藤澤泉	委員	松浜さくら園	遠藤愛子
副委員長	楽山苑	殖栗真弓	委員	やまぼうし	桐生宏樹
委員	いいでの里	山本貴之	委員	米山爽風苑	斎藤一夫



老健とわたし

様々な職種の職員の方が、それぞれの専門性を活かしながら施設を支えています。その職員の方の声と人柄をお届けします。

入舟 看護師 長場 真由美

- ① 新潟市秋葉区
- ② 18年目
- ③ 利用者様の笑顔が見れたとき
- ④ 男性スタッフがみんなイケメンです♥
- ⑤ 日々利用者様から元気と笑いをもらって仕事させていただいています。でも、逆に私達も元気で笑顔でいなければ利用者様も元気になられません。気を引きしめて毎日を大切にしていきたいと思います。



汐彩の郷 介護支援専門員 伊藤 洋子

- ① 北蒲原郡聖籠町
- ② 9か月目
- ③ ご利用者様との会話の中に笑顔や親近感を感じられた時
- ④ 3階建ての屋上に足湯があり、ご利用者様や地域の方にご利用して頂き大変喜ばれています。
- ⑤ この仕事に就き日が浅く勉強する事が多々ありますが知識や経験を身に付け、地域や社会との繋がりを広げ笑いある心地よい生活が送れるよう支援していきたいです。

緑樹苑 介護福祉士 本間 祐樹

- ① 新潟市中央区
- ② 7年目
- ③ 人生の先輩である利用者様から「ありがとう」や感謝の言葉を掛けた時
- ④ 総合リハビリテーションセンター・みどり病院と連携して、リハビリにも認知症にも力強く取り組んでいます。
- ⑤ 利用者様とお話することが本当に楽しいです。コミュニケーションをとる中で信頼関係が築け利用者様の笑顔を見ることができるとともに嬉しく自分の活力になります。これからも会話を大切にして関わっていきたいです。



(質問内容)

- ① 施設所在地
- ② この職種についての年数
- ③ この仕事のやりがいを感じる時
- ④ 施設のプチ自慢
- ⑤ メッセージ



あらまち 支援相談員 藤澤明子

- ① 長岡市
- ② 10年目
- ③ 相手の悩みや問題に、「少しでも力になれたのかな…」と思えることがあるとうれしく思います。
- ④ 長岡市の中心市街地に施設があり、スーパーもすぐ裏にあります。ご利用者と一緒に散歩を兼ねて買い物に行くこともあります。また、車の運転ができないご家族も、駅から近く、バスやタクシーで面会に来られ、とても便がいいと言われます。立地条件は非常に良いところです。
- ⑤ 入職した頃は、必死に周りについていくことで精一杯でした。今は、色々な方と様々な触れ合いや関わりをさせてもらう中で、毎日が勉強です。「人に伝える」ということの難しさや楽しさを感じながら仕事しています。

いっぷく2番館 理学療法士 内藤翔太

- ① 三条市
- ② 8年目
- ③ 御利用者から「ありがとう」「またよろしく」「楽になった」などのあたたかい言葉を頂いた時。
- ④ 施設職員が皆、熱心であたたかい事が自慢です。そして何より、笑いを必死に取りに行く姿勢も自慢の一つです。(笑)
- ⑤ 当施設は開設から6年目、リハビリ職員の平均年齢は28歳程度とまだまだ若く未熟で至らない点も多いですが、御利用者お一人お一人へ職員一丸となり頑張ってケアを行っていきたいと思います。

当施設は制服は無く、私服で仕事しております。



江風苑 管理栄養士 勝田千恵美



- ① 新潟市北区
- ② 11年目
- ③ 食事を召し上がって頂いた時に「美味しい」と満面の笑みが見られた時
- ④ 江風苑では畑があり、そこで育った野菜を利用者様に召し上がっていただいている。また、周りは田んぼに囲まれ、すぐ近くには阿賀野川が流れおり、自然に囲まれた景色の良い施設です。
- ⑤ 利用者様にとって食事は楽しみの一つであると思いません。「美味しい」と思っていただけるよう、自分自身もっと食事に興味を持ち、色々なアイデア等を取り入れていきたいです。まだまだ未熟者ですが頑張ります!!



ひなこの広場

入舟

入舟では年末が近づくと、翌年の干支の貼り絵の作成を行なっています。職員が下絵を描き、御利用者と一緒に丸めたおはな紙を貼っていきます。過去の干支作品も掲示しており、12支の勢揃いにはあと7年！頑張ります。



あらまち

イチゴをたくさんいただきました。

「おいしいジャムが食べたい」との声が上がり、ジャムを作りました。写真はヘタを取っているところです。何時間も煮ていたらジャムの甘い香りが施設内を流れてきました。



汐彩の郷

折り紙を細く千切り、貼り絵を作成されました。「七福神」の絵を見つけてご本人様も「これがいい」と、とても張切って作成され、今にでも飛び出してきそうな「七福神」に仕上がり、1カ月程で完成しました。



いっぷく2番館

今年の夏のテーマは、「ひまわり」。

花火の貼り絵と組み合わせる事で、御利用者がそれぞれ得意な作業を行なっていました。御利用者、そして通所リハビリテーション職員の苦労の末やっと完成致しました！



緑樹苑

明治44年生まれの諸橋マツ様の作品「椿」です。材料は廃品を利用し、立体的に見えるよう花や葉は重ねて貼りました。枝には刺繡糸をのりで固める等、全てご自身で工夫して作られました。俳句もご自身の作品です。



江風苑

利用者様が作成した「だるま」です。紙を糊で貼り、色付けしたものです。とても愛嬌のある顔に仕上がっています。江風苑の玄関に飾られており、来苑する方々を出迎えてくれています。



編集後記

この号が発行される頃には、暑さも盛りを迎えているかと思います。お忙しい毎日かと思いますが、暑さで体調を崩されないようご自愛いただければと思います。

今号にはアニマルセラピーと県老健大会学術奨励賞を受賞した演題「認知症女性入所者を対象とした家事動作グループ活動」を掲載させていただきました。今後も日頃の業務の参考となるような記事を紹介していくたいと思います。また広報委員も新年度に入り、新たに委員も加わりました。これからも様々な情報を皆様にお届けできるよう頑張って参ります。

(広報委員一同)

新潟県介護老人保健施設協会広報誌
「老健にいがた」第34号

編集・発行 新潟県介護老人保健施設協会広報委員会
〒959-2805 新潟県胎内市下館字大開1522
介護老人保健施設やまぼうし
TEL (0254)47-3303
FAX (0254)47-3370
URL <http://niigata-rouken.org/>
印刷 野崎印刷株式会社